

健保組合の危機続く

「財政健全化へご協力を」

去る7月17日(木)、第137回組合会において、名古屋木材健康保険組合の平成25年度決算が、原案どおり承認されましたのでお知らせします。

詳細は別掲のとおりです。収入総額(介護保険含む)32億3,467万円、支出総額(介護保険含む)31億1,212万円、差し引き1億2,255万円の決算残金となりました。

決算の内訳を前年度と対比しますと、収入の基である健康保険料については、対前年111.1%で金額にして2億7,175万3千円の増加となりました。これは、保険料率引き上げによるものです(90/1000→98/1000)。

支出の大部分を占めているのが保険給付費と納付金です。保険給付費については前年とほぼ同じで、金額にして341万6千円の増加となり、保険料収入に占める割合は52.0%(前年度57.7%)となりました。保険給付費の被保険者1人当たり金額は257,793円(前年度257,079円)で、前年度と比べ714円の増加となりました。納付金については、金額にして12億7,945万9千円、前年度比2億7,178万4千円の増加となり、保険料収入に占める割合は46.9%(前年度41.0%)となりました。また、被保険者1人当たり金額は232,418円(前年度182,980円)で、前年度と比べ49,438円の増加となりました。

この結果、収入支出差し引き額は赤字ですが、経常収支についてはマイナス決算となりました。木材業界がやや持ち直した気配のため、標準報酬月額も前年より増加しており、保険料収入の伸びを期待したいと思います。



健康保険(決算)のあらまし

科目	決算額(千円)
健康保険料	2,726,812
国庫負担金収入	1,293
調整保険料	36,729
繰入金	150,122
国庫補助金収入	727
特定健康診査等事業収入	0
前期高齢者交付金	0
財政調整事業交付金	41,254
雑収入	6,711
介護勘定受入	0
合計	2,963,648

科目	決算額(千円)
事務費	68,062
保険給付費	1,419,152
納付金	1,279,459
保健事業費	34,251
還付金	16
財政調整事業拠出金	36,629
連合会費	1,689
積立金	2,723
その他	1,448
介護勘定繰入	0
合計	2,843,429
収入支出差し引き額	120,219

平均被保険者数(年間)	5,505人
男	4,472人
女	1,033人
平均標準報酬月額(年間)	345,251円
男	372,518円
女	225,531円
総標準賞与額(年間)	5,450,804千円
平均年齢	43.02歳
男	43.37歳
女	41.50歳
保険料率(調整保険料率含む)	98/1000
事業主	50.6/1000
被保険者	47.4/1000

介護保険(決算)のあらまし

科目	決算額(千円)
介護保険料	237,905
繰越金	0
繰入金	33,110
雑収入	7
一般勘定受入	0
合計	271,022

科目	決算額(千円)
介護納付金	268,690
還付金	0
積立金	0
一般勘定繰入	0
合計	268,690
収入支出差し引き額	2,332

介護保険第2号被保険者数	2,956人
平均標準報酬月額(年間)	386,820円
総標準賞与額(年間)	3,275,911千円
介護保険料率	14/1000
事業主	7/1000
被保険者	7/1000

熱戦の末、エンヤチーム 悲願の初優勝!!

第64回
全名古屋
木材産業
野球大会

名古屋木材健康保険組合主催、名古屋木材組合・名古屋港木材産業協同組合・名古屋木材青壮年会・木材工業新聞社後援の第64回全名古屋木材産業野球大会が開催されました。

5月11日(日)、木場南広場野球場において二チハチーム対サンコーチームの3位決定戦と、エンヤチーム対山西チームによる優勝決定戦が行われ、2試合とも白熱した好試合となりました。エンヤチームが山西チームを破り、悲願の初優勝に輝きました。



決勝戦終了後に表彰式が行われ、優勝したエンヤチームを中心に準優勝の山西チーム、3位のサンコーチームが整列する中、当健保組合常務の前川が「今回は好天に恵まれ、みなさまのご協力もあって順調に日程を消化することができました。一回戦以降、各チームの持ち味を活かした試合が続き、本日も大変見ごたえのある展開となりました。エンヤチームのみなさま、初優勝おめでとうございます。ぜひ二連覇目指して頑張ってください。準優勝となられた山西チームのみなさまは、緊迫した投手戦のちょっとしたミスが敗退につながってしまい、本当に残念でした。そして、3位のサンコーチームをはじめ参加チームのみなさま、大会を盛り上げていただきありがとうございます。来年こそは優勝を目指して頑張ってくださいと思います。来年もどうぞ、関係事業所の健康増進と親睦を深める趣旨の下、多くのチームにご参加いただきますようお願い申し上げます」と挨拶。

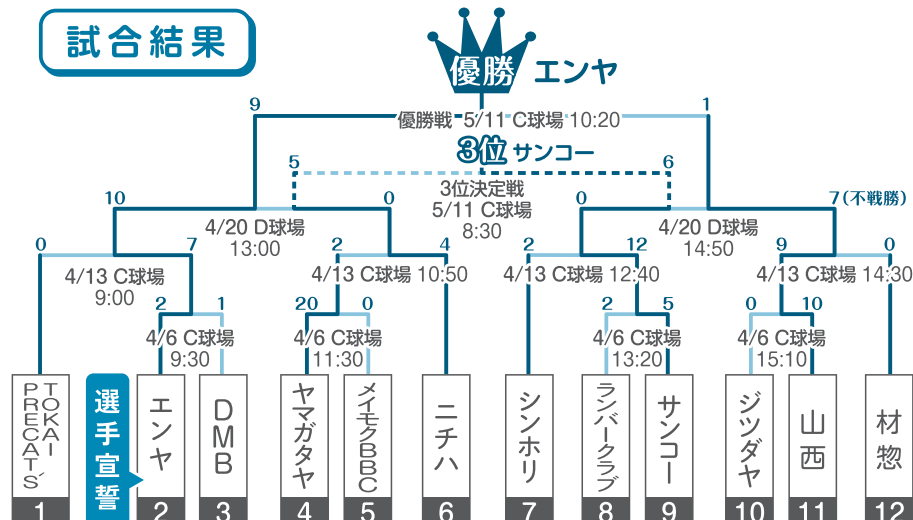
続いて、優勝チームに優勝旗・優勝杯・賞状が、準優勝チームに準優勝盾が、3位チームに盾がそれぞれ手渡されました。最優秀選手賞に長谷部選手(エンヤ)、優秀選手賞には土居選手(山西)が選ばれ、それぞれトロフィーが手渡されました。

最後に、山崎審判部長より「大会前に『規則と親睦の精神にのっかって安全に楽しく』とお願いしたとおり、怪我もなく無事終了できてよかったと思います。来年もぜひ、楽しむ中にも厳しさを保ち、今まで以上の成績を挙げていただきますようよろしくお願いいたします」との大会講評をいただき、表彰式が締めくくられました。

野球大会結果

- 👑 **優勝** エンヤ
- 👑 **準優勝** 山西
- 🥉 **3位** サンコー
- 🏆 **最優秀選手賞**
長谷部選手(エンヤ)
- 🏆 **優秀選手賞** 土居選手(山西)

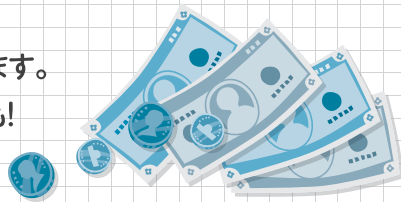
試合結果



意外と知らない!?

医療費のムダをなくそう!

健康保険に加入しているみなさんは、必要な医療を小さな自己負担で受けられます。しかし、だからといって気軽に受診していると、思いもよらない高額な出費になることも! 医療費のコスト意識を高めて、今一度、受診のしかたを見直してみましょう。



はしご受診はムダ!

同じ病気で複数の医療機関を渡り歩く『はしご受診』は、病院を替えるたびに初診料がかさんだり、 unnecessaryな検査を何度もやり直したりすることになります。金銭面でも時間の面でも大きなムダ!

	1回目	2回目
同一医療機関で受診	初診料 2,820円	再診料 720円
はしご受診	初診料 2,820円	初診料 2,820円

※自己負担額は上記の3割(年齢等による)です。

『いきなり大病院』はムダ!

ベッド数200床以上の大きな病院を紹介状なしに受診すると、初診料の他に全額自己負担の「特別料金」がかかります。「特別料金」は多いところで数千円もかかるうえ、大学病院などでは初診料も一部、健康保険の対象外となります。



コンビニ受診はムダ!

緊急性が薄いの、都合がいいから、混んでないからといって早朝・夜間や休日に医療機関を訪れる『コンビニ受診』は、通常の診察料に「時間外加算」等が加わります。



医療機関の診療料加算

	対象日時	初診	再診
基本診察料	すべての時間帯	2,820円	720円
時間外加算	平日 6:00~8:00 18:00~22:00	+850円	+650円
	土曜 6:00~8:00 12:00~22:00		
深夜加算	22:00~6:00	+4,800円	+4,200円
休日加算	日曜・祝日・年末年始	+2,500円	+1,900円

※自己負担額は上記の3割(年齢等による)です。
※調剤薬局でも所定の加算が発生します。

子どもはタダだと思ってむやみに受診するとムダ!

多くの自治体で子どもの医療費を助成する制度が設けられているため、子どもが医療機関にかかっても支払いをせず済む場合が増えていきます。子どもの医療費はタダだと思つと、ちょっとした症状でも気軽に受診してしまいがちですね。しかし、それは大きな間違い! 自治体は本来の子どもの自己負担分である2~3割を助成してくれているだけで、残りの7~8割は健保組合が負担しているのです。むやみに受診すると、みなさんから納めていただいている保険料のムダづかいになってしまいます。

7~8割 健保組合が負担

2~3割 自己負担
(自治体が負担)

財源はみなさんからの保険料

病院に行くべきか迷ったら、
まず電話相談などで落ち着いて検討しましょう。

小児救急電話相談 #8000

★けいれんが止まらない、意識がない、呼吸が苦しいなど、明らかに緊急を要する場合は迷わず119番をご利用ください。

※一部利用できない地域があります。
※ダイヤル回線、IP電話などを使用する場合は、各都道府県の相談窓口にお掛けください。
※利用時間は都道府県によって異なります。

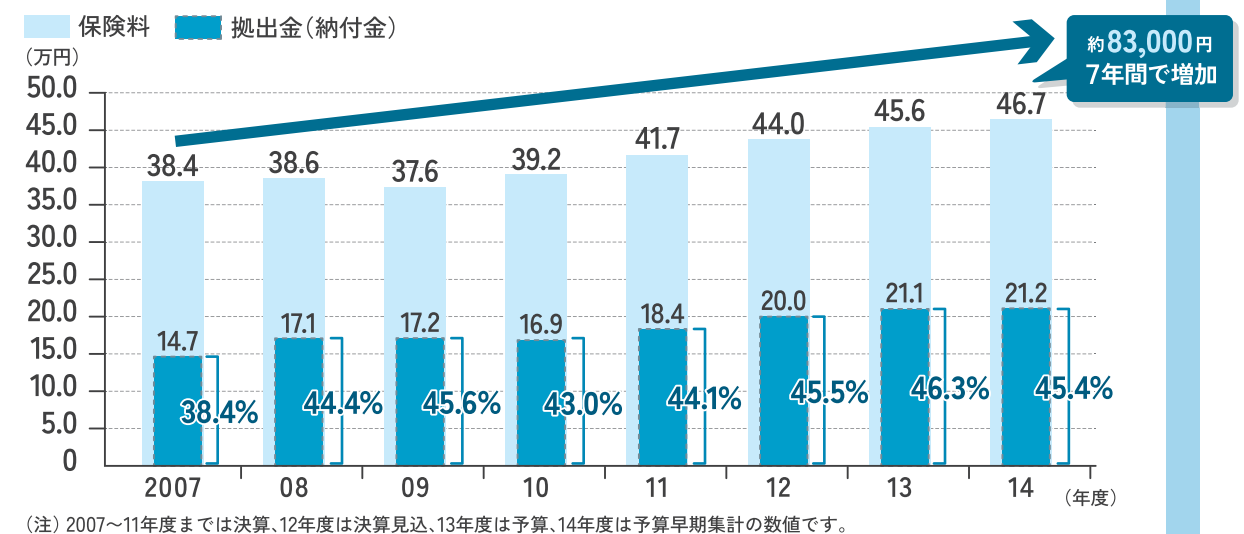
医療費のムダづかいは、みなさんからの保険料のムダづかいでもあります。ムダをなくして医療費節減を心がけ、健保財政の健全化にご協力をお願いいたします。

保険料の約5割は
拠出金(納付金)

高齢者医療への負担はもう限界です

- 健保組合は2008年度以降、7年連続の赤字財政となっています。これは、高齢者医療制度が創設され、65歳以上の高齢者の医療費を負担する現役世代の拠出金(納付金)の仕組みが改正されたためです。
- 健保組合の被保険者1人当たりで負担する高齢者医療への拠出金(納付金)は、制度創設前の2007年度の14.7万円(年間)から2014年度は21.2万円に増え、1人当たりの年間保険料も、この7年間で8.3万円、1年間に約1.2万円増加しています。拠出金(納付金)を支払うために多くの健保組合が保険料を引き上げていますが、保険料に占める拠出金(納付金)の割合は確実に上昇し、2014年度は45.4%と約5割に達しています。
- 2015年度にはすべての団塊の世代が65歳以上の前期高齢者となり、高齢者の医療費は、さらに増加することが見込まれますが、**現役世代の保険料による拠出金(納付金)負担はもう限界です。**

1人当たりの年間保険料に占める拠出金(納付金)の割合(年度)推移



日本の国民医療費は毎年1兆円を超える規模で増加し、現在の仕組みのままでは増え続ける医療費を支えることができなくなります。将来にわたって国民皆保険制度を維持していくためには、国民医療費全体の約6割を占める高齢者医療費を国民全体でどのように負担していくかが最大の課題です。

健保組合と健保連は、健保組合の財政悪化に歯止めをかけ、国民皆保険を守っていくためにも、高齢者医療制度に公費(税金)を投入・拡充することを国に強く求めています。

※本資料は、健保組合の事業主・加入者の方がたに健保組合の現状と、健保組合・健保連の主張を広くご理解いただくことを目的に作成し、全健保組合の統一広報活動として広報誌およびホームページに掲載しています。

健康保険のみらいをみんなでつくる/
あしたの健保プロジェクト

誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険制度は、私たちの貴重な財産。この財産を守るため、医療保険制度を超高齢社会に耐え得る仕組みに改革すべきです。全国の健保組合と健保連は、一丸となって、「あしたの健保プロジェクト」を展開し、主張の実現をめざしています。



健保組合の窮状をどうかご理解いただき、左ページなどを参考に、医療費の節減にご協力をお願いいたします。